令和４年度第１回文化財保護委員会抄録

１　安城市民憲章唱和

２　辞令交付

３　新任生涯学習部長紹介・新任文化振興課長紹介

４　教育長あいさつ

５　委員長・副委員長選出

６　協議事項

（１）令和３年度文化財保護事業結果について

【説明】（事務局・委員）

・新規指定文化財は和泉町本龍寺の「木造 阿弥陀如来立像」で、国登録有形建造物は川島町西心寺の「西心寺本堂」と「西心寺山門」。本龍寺の「木造 阿弥陀如来立像」は今年度も継続して行われる文化財悉皆調査で平安時代後期のものと判明した。（事務局）

・文化財管理調査によって課題として取り上げられた「堀内の大イチョウ」は最上部の腐朽枝を除去する。「学甫堂」は茅葺き屋根の全面葺替えを行う。両者とも補助金を用意している。（事務局）

・出前講座等は、新型コロナウイルス感染拡大防止の影響で一昨年度は 12 講座で延べ人数 456 名だったことに対して、昨年度は 29 講座延べ人数 1,156 名と復調気味となった。（事務局）

【質疑応答】（事務局・委員）

・「堀内の大イチョウ」の状態はどうなっているか。（委員）

→最上部は枯れているため腐朽枝を除去した後に殺菌剤を塗布する処置をとるが、下部の枝はＹ字状に伸びていることから樹勢自体は良好である。（委員）

・「学甫堂」の状態はどうなっているか。（委員）

→以前から傷んでいた茅葺き屋根の全面葺替えになる。他にも防災設備として管理者が独自で設置したスプリンクラーに関して対処することと屋根以外の部分も傷んできている現状である。（委員）

・「桜井神社のまつり囃子保存団体」は７団体中２団体が補助を辞退しているが、どのような状況であるか事務局でヒアリングしているか。（委員）

→補助金は発表以外に道具の修理にも認めており、その旨を伝えている。しかし昨年度は２団体が修理等も行わないということと練習は人が集まることから新型コロナウイルス感染症拡大防止のため補助を辞退している。（事務局）

・無形民俗文化財を維持するためには、コミュニティーの持続力をつけていく支援が必要となる。（委員）

→事務局で補助に関して団体をリードするような説明をすると良い。（委員）

・史料整備活用事業で博物館の収蔵スペース状況はどうか、また購入資料の内訳はどのようなものか。（委員）

→学芸係管轄になるため詳細な回答はできないが、収蔵スペースに関して楽観的な状況ではない。

また購入資料についても確認次第回答したい。（事務局）

・「東海道のマツ並木」はどのような理由で減少しているのか。（委員）

→台風や松くい虫が主な理由になる。景観の保持という点から定期的な補植をしていきたい。（事務局）

・「聖徳太子絵伝」「善光寺如来絵伝」を修理する業者は実績のある業者を選定して欲しい。（委員）

→一定の技術水準を満たした表具屋が所属する国宝修理装潢師連盟に加盟した業者から所有者を協議して選定する。（事務局）

（２）令和４年度文化財保護関係事業計画について

【説明】（事務局）

・「聖徳太子絵伝」「善光寺如来絵伝」を国補助・県補助・市補助を掛けて 10 年間計画で修理を行う。今年度は４年間を掛けて「聖徳太子絵伝」の第６幅と第８幅、「善光寺如来絵伝」の第３幅と第４幅を修理する。（事務局）

・岩田副委員長が調査した『安城の神社建築』は、新型コロナウイルス感染症の影響で刊行が２年遅れていたが、今年度刊行する。

・「東海道のマツ並木」は平成初期から約 30 本程度が減少しているため、市制施行 70 周年事業として安城北部小学校と志貴小学校の卒業生に１クラス１本ずつ補植していただく。補植したマツにはステンレス製のプレートを取り付ける。（事務局）

・本證寺近辺の土地買収として江戸時代に代官屋敷があったとされる土地を買収する。（事務局）

・市制施行 70 周年事業として西三河棒の手交流大会を実施する。この大会では安城市のほかに西尾市、みよし市、豊田市の４流派４団体に披露していただく。（事務局）

・大河ドラマ関連事業として、ガイドボランティアの養成や市内３校の高校生放送関係部に２分程度の動画を４本ずつ分担して制作していただく。（事務局）

【質疑応答】（事務局・委員）

・「聖徳太子絵伝」「善光寺如来絵伝」修理後の公開方法について、修理の終わったものから公開していくか、全幅の修理が完了してから一気に公開するか、どのように計画しているか。（委員）

→所有者と協議しながら方向性を調整して報告したい。（事務局）

（３）令和４年度指定文化財の管理調査について

【説明】（事務局）

・３年１回のペースで実施しており、今年度は３班に分かれて調査を行う。（事務局）

7　報告事項

（１）史跡本證寺境内整備検討会議・石垣修理について

【説明】（事務局）

・現在の石垣は孕んだ状態となっているが、この原因は石垣の裏に詰められた土が柔らかかったことやコンクリート製の塀の重量、雨水の浸透による内側の土の流出が関係していると考えられる。

（事務局）

・今回の修理は、石垣の積み直しのほかに石垣の裏に栗石を加え、またコンクリート板による重量の分散を考えている。また塀もコンクリート製ではなく軽量鉄骨にすれば軽量化できるため課題が解決できるだろうと考えている。（事務局）

・塀を撤去してから２ヵ所を先行解体して内側の状況を確認して、修理方針について検討してから全体の解体を開始する。（事務局）

（２）姫小川古墳崩落防止対策工事について

【説明】（事務局）

・崩落の激しい部分は盛土をする。比較的崩落が少ない部分は表面を保護したうえで植物を植えて崩落を防止する。（事務局）

・墳頂部の排水は、勾配をつけたうえで浅い側溝を設けて雨水をパイプに集める。そして道路の側溝まで下ろして排水する。（事務局）

・盛土の仕方は、急角度になる関係で一般的な盛土では対応できない。そのためジオテキスタイルという方法を用いる。（事務局）

（３）聖徳太子絵伝・善光寺如来絵伝の修理について

【説明】（事務局）

・「聖徳太子絵伝」「善光寺如来絵伝」は 10 年間を掛けて修理を進めるため、本会議にも定期的に進捗を報告する。（事務局）

【質疑応答】（事務局・委員）

・徳川美術館では、「源氏物語絵巻」15 巻分を５年間掛けて額装に戻したが、この時は修理が完了してから一気に公開した。「初音の調度」は修理が完了したものから公開して、すべての修理が完了した時にも全点公開する予定であるため、これはケースバイケースで考えれば良い。ただ税金を利用する以上は公開が必要であるため所有者と相談しながら計画を立てて欲しい。（委員）